

歩いてまわろう

新四国のみち NEWS

地域主体のみちづくり・まちづくりを支援します！

第3号（平成15年1月6日）



あけましておめでとうございます。
今年もよろしくお祈いします。



新四国のみちサミットを開催

新四国のみちの13地区の代表者が一堂に会して意見交換を行う「新四国のみちサミット」が1月28日(木)、高知県野市町内で開催されました。

主催は新四国のみち推進協議会（四国地方整備局・四国四県）で、地区代表者・アドバイザー・行政担当者等約60人が参加しました。

四国地方整備局 渡辺和弘道路調査官・野市町 山本学助役の挨拶、事務局からの活動状況報告の後、各地区からそれぞれの取組状況を発表。課題や問題点等について意見交換を行いました。アドバイザーの兼松方彦氏(NPO 地域交流センター四国)や畠中智子氏(高知のまちづくりを考える会)からも、各地区の今後の運営の参考となる的確なアドバイスがあり、地区代表者・行政担当者それぞれにとって有意義な会議となりました。



具体的な発言内容等

- ・個人個人の考え方が大きく違うため、地区推進協議会の意見がなかなかまとまらず方針等の一本化には大変苦労した。
- ・地区の女性の参加が少なく、どう取り込むかが課題。
- ・整備することも大事だが、保全することも大事。大きな補修は行政でないとできないが、小さな補修はボランティアで実施したい。
- ・遊歩道を整備した結果、ウォークイベントの参加者が増加。これに伴い、車椅子の方への対応も必要になってきている。
- ・もう一度来て、ゆっくり歩いてみたくなるマップづくりを心がけたい。
- ・行政にも車中心でなく遍路など歩く人にやさしい道づくりを目指して欲しい。
- ・外から来た人の視点を通すと、何もなかったと思っていた地区が秘めている他にない魅力や地域づくりの可能性が見えてくる。
- ・ボランティアサポートプログラムはまちづくりの入口となる取組。ひとりひとりが自分のまちにプライドや責任感を持つことができる。
- ・頑張らないのが長続きの秘訣。頑張りすぎず楽しむことが大切。

新四国のみちサミットでの意見交換の詳細については、別途議事録をまとめて紹介する予定です。

翌1月29日(金)は地元野市町の新四国のみち「野開きのみち」を見学しました。ウォーキングトレイル事業で整備された遊歩道は、野市町の豊富な水を常に感じられるように整備されており、地域の資源を有効に活用した事例として大変参考になりました。

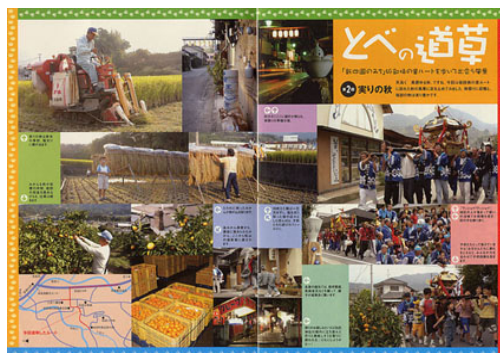
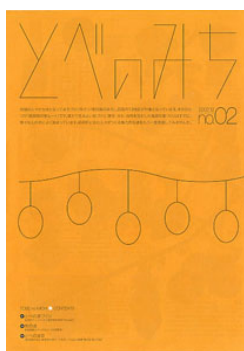
現地見学後、行政担当者による担当者会議も開催され、サミットの議論を踏まえて地区の取組と行政の協調体制や今後の進め方等について意見交換しました。



愛媛県砥部地区がパンフレット第2号を作成

愛媛県砥部地区では「砥部焼の里ルート」を中心として、砥部の文化や地元住民の地域活動の姿を取り上げつつ、街づくりにおける「みちづくり」の大切さの意識の高揚を図れるようパンフレット「とべのみち」を作成しています。

今年8月に第1号を発行し、12月に第2号が完成しました。このパンフレットは、合計4回にわたり砥部地区の魅力を満載した内容で作成していく予定です。第2号では、徳島県の大谷焼から転身した窯元さんや砥部地区の実りの秋の風景を紹介しています。



高知県大野見地区新四国のみちハイキング「人と自然が輝く源流のみち」を開催

高知県大野見地区では12月1日(日)、新四国のみちハイキング「人と自然が輝く源流のみち」を開催しました。

当日は約10kmのコースに約100名が参加。前日からの雨で開催が心配されましたが、受付開始とともに雨もあがり12月にしては暖かい絶好のハイキング日和となり、大野見地区内にある史跡やミニ八十八カ所を巡りながら、素晴らしい自然を体感しました。また、昼食は地元大野見村婦人部やボランティアによる七面鳥やアメゴ等を使った郷土料理に舌鼓。「これを楽しみに来た」と満足そうに語る参加者も。

終了後、ある参加者は「普段あまり歩くことがないのでいい機会になった。これを機に歩くことを続けていきたい」と話し、また、約10kmという道のりに最初不安そうな顔をしていた参加者も「この日のために歩く練習をして来たから平気だった」とまだまだ余裕の表情を浮かべられていました。



愛媛県卯之町地区で具体的な整備計画案を議論

愛媛県卯之町地区で、本年度2回目の整備推進協議会が12月9日(月)に開催されました。

今回は、整備計画の今年度内策定に向けて開催されたもので、13年度に実施した現地調査結果及び前回の協議会等での提案等を踏まえてまとめた具体的な整備計画案について事務局より説明を行いました。

卯之町地区は、ルートが歴史的な町並みから山間を抜ける遍路道等多様な側面を持った「みち」で構成されていることから、整備計画案ではルートの特性毎に五つのエリアに区分して整備を進めることとしています。

各委員からは、間伐材等を利用しなるべく費用のかからない工法で整備すべき、地域全体での盛り上げりのためイベントの実施も必要ではないか等の意見が出されました。

今回提案された意見等を集約し、次回の協議会(1月下旬予定)で整備計画を決定することとなりました。



大洲工事事務所「新四国のみち」卯之町地区アドレス
<http://www.skr.mlit.go.jp/oozu/michinavi/index.html>

くらしと技術の建設フェアで新四国のみちをPR

くらしと技術の建設フェアが11月22日(金)・23日(土)の2日間、高松市内で開催され、約5,500人の入場者が訪れました。

四国地方整備局道路部でもブースを構え、四国らしいみちづくりを紹介。その中で「新四国のみち」の取組をパネルやパンフレット等でPRしました。入場者は香川の方が多かったこともあり、県外の認定地区に訪れたことの無い人が多く、「機会があれば一度行ってみたい」という声も聞かれました。



～ 編集後記 ～

「新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお祈りします。」

11月に行った「新四国のみちサミット」では、13地区の代表者や市町村担当者の方々のお話をいろいろと伺い、各地区の実情を具体的に知ることができました。全ての地区になかなか出向くことができないため、各地区で取り組まれている方々や市町村担当者の「新四国のみち」に対する熱意や意気込みを直接伺うことができたので、私にとっても意義のある会議となりました。

また、サミット終了後のアンケートで記入して頂いた内容を簡単に紹介します。いただいた意見を参考に、今後の取組を充実させていきたいと考えています。

(黒木)

アンケート結果

1. サミット開催時期
“おおむね良好”という評価を頂きましたが、「ウォーキングしやすい春（年度初め）」とか「秋の行楽時期が良い」という意見もありました。
2. サミットで議論した内容で活動の参考になったこと
石積みボランティアなどの他地区の活動事例が具体的に紹介されたことや、アドバイザーからの提言等が参考になったという意見が多数ありました。
3. 今後のサミットの開催
4県で持ち回る案や、取組が先進的な地区で開催する案が寄せられました。年1回は開催すべきという意見もありました。
4. 今後、情報提供して欲しいこと
各地区の整備計画の内容やイベント等の活動情報を知りたいとの意見が多数ありました。

編集・発行

新四国のみち事務局

四国地方整備局道路部地域道路課 黒木、近藤

TEL 087-851-8061（代表）

HP アドレス：<http://www.skr.mlit.go.jp/road/sinsikok/index.html>

E-Mail：kuroki-k8812@skr.mlit.go.jp , kondou-m8812@skr.mlit.go.jp